

特集

## 武蔵野市

## 災害時物資供給

## マニュアル検討会議

当センターは地域の災害対策を更に充実させるため、自治体、または複数の自治体・団体からなる連合会が設置している協議会など（以下、協議会）に参画しています。これらの組織には、その会の目的に応じた、有識者をはじめ、物資供給、配送、生活・交通インフラ、避難施設の管理・運営などを担う様々な事業者・団体が所属しています。

当センターが参画している組織も、そのほとんどが物資供給に関する仕組みの構築や改善が目的です。

協議会では自治体の掲げる目標に対しての課題や問題点を、各事業者の視点で捉え、改善策を提案します。また、事業者側もこれまでの経験から同様に課題を挙げ、自治体の要望に対して何が出来て何が出来ないかを明示し、全体で共有しています。当センターも、要請時に問題となりやすい点や、相互に協力していくべき点等を提示しています。

さらにほとんどの組織は、会議だけでなく図上訓練や実動訓練も行います。発災から要請・搬入出などの一通りの流れと、実際に走る道路や物資集積場・避難所の使用感を時間をかけて確認し、検証を重ねています。

これらを繰り返し行い、改善された手順をマニュアル等に組み込みます。このように全体の災害対応の精度を高め、加えて災害時の相互の活動を明らかにすることが、円滑な連携につながっているのです。

東京都武蔵野市様は、2008年に当センターと「災害時等における物資供給に関する協定」を締結されています。2020年、災害時の物資供給を円滑にし、市民生活の早期復旧に資するために必要な事項について協議・検討を行うため、「武蔵野市災害時物資供給マニュアル検討会議」を設置されました。当センターはこの検討会議に委員として参画しております。今回、特に物資供給に絞って取り組まれている武蔵野市様の検討会議についてご紹介いたします。

お 話／武蔵野市役所 防災課 松丘様

多文化共生・交流課 永嶋様  
聞き手／NPO法人コメリ災害対策センター 古澤

最初に、「武蔵野市災害時物資供給マニュアル検討会議」の設置の目的とその背景、活動の主旨についてお聞かせください。

この検討会議設置まで武蔵野市では災害時の物資供給について定めているマニュアルはなく、地域防災計画の一部に物資供給や物資管理についての記載があるのみでした。発災時は市民部が災対市民部として物資管理を担当していますが、具体的な内容について定

めていなかったのが実状です。

そのような中、2016年に発生した熊本地震で緊急物資輸送拠点から先の避難所までのラストワンマイル輸送の問題が浮き彫りになったことで課題意識を持ち、対策が必要と考えるようになりました。対策方法について、災対市民部物資管理班の管理職内で意見交換を進めた結果、詳細を協議し一度マニュアルとして明確に定める事を決定いたしました。

2017年から2019年の間は職



武蔵野市役所庁舎(提供:武蔵野市)

員のみで対策案の検討を行いました。が、対策が専門的で職員のみでは十分な対策案を出すことが出来ず、外部からの知見を入れる必要があるという結論に至りました。そこで、市の協定締結事業者・団体や東京都の職員の方々と交えての検討会議を設置することとしました。予算確保後、2021年より有識者や事業者に参加いただき、災害対策の手順をマニュアル化する活動を行っています。

策定するマニュアルは、武蔵野市が

被災した際に必要となる物資のうち、備蓄物資や支援物資、調達物資を被災者への支援として迅速かつ安定的に避難所等へ供給するためのものです。受入れや供給に係る体制と関係機関との役割分担を整理し、物資供給についての具体的な手順を示すことを目的に作成しています。

検討会議の関係部署や委員に参画している事業者・団体はどのような内訳になっていますか。組織の体制についてお聞かせください。

このマニュアルで定める物資に関する体制は、市役所内の3課と、緊急物資輸送拠点となる総合体育館を平常時に運営する公益財団法人(以下「事業団」と)で編成された物資管理班を中心に構成されています。(表①参照)物資管理班の他には、物資輸送の運用を担当する物資搬送班を市の1課が担っています。また、物資輸送の際には公用車を使用することもあるので、別に班を設け担当課を付けています。ですので、物資供給という枠組みとしては、市役所の5課と事業団1団体によって編成されています。一方の事業者は、協定締結事業者の中でも物資や輸送に関わりのある物流事業者から選定しました。しかし、物資

表①

業務分類	担当班	業務内容	担当課	
物資管理 統括	物資管理班 (統括チーム)	物資管理班の管理・統制 関係各所との調整、(物資チームの支援) 物資管理班への人的受援に関する窓口・ 調整に関する業務	産業振興課	
物資	需要 把握	物資管理班 (需要把握チーム)	避難所のニーズ情報の集約 避難所へ物資の供給見通しの伝達	多文化共生・交流課
	物資 調整	物資管理班 (物資調整チーム)	需要と調達の調整、調達計画・配分計画 の策定 物資管理班(拠点チーム)へ拠点確保の 指示、物資搬送班へ輸送確保に関する 指示	多文化共生・交流課
	調達	物資管理班 (調達チーム)	国・企業等より支援物資の調達	多文化共生・交流課
物流	拠点	物資管理班 (拠点チーム)	拠点の確保、入出荷指示、在庫管理	監査委員事務局 管財課
	輸送	物資搬送班	輸送計画の策定、輸送手段の確保、 交通情報整理	ごみ総合対策課
		管財施設班	公用車の管理	管財課
	緊急物資 拠点内 業務	緊急物資拠点 チーム	荷受け・仕分け、管理、 配送等業務のマネジメント	総合体育館及び 物資管理班(拠点チーム) から派遣された職員
避難所管理	災対子ども家庭部 避難所班	避難所運営 各避難所のニーズ把握	子ども育成課 子ども政策課 子ども家庭支援センター 児童青少年課	
	災対教育部庶務班		教育企画課	
	災対教育部避難所班		指導課、教育支援課、 図書館	

輸送を担う事業者については一事業者のみであり、体制の強化については検討会議の中で課題となっていました。

この件については、検討会議設置後に物資輸送を担う事業者と新たに協定を締結することができ、緊急物資輸送拠点の運営、物資の搬送、災害対策本部の物資供給に関するマネジメント

トを含む内容で協力いただけることとなっております。すでに緊急物資輸送拠点の視察もいただいております。マニュアルを策定した後にも事業者の協力内容を含みアップデートしていく必要があると思っております。

また、専門的知見をお持ちの学識のある方や、広域行政を担う東京都職員

の方にもご協力いただき、こちらも大変ありがたいことでした。

マニュアル策定の流れや、検討会議設置からの活動内容について具体的に教えてください。

検討会議全体の進め方は、①第1回

武蔵野市災害時物資供給マニュアル(中間案)より引用して一部改変

の検討会議で骨子をお示しし意見をいただく、②第2回でいただいた意見を基に中間案として体裁を整える、③第3回で全体を通して検討された内容を反映しマニュアルとして策定する、という段階を踏むこととしました。実際に現時点(取材時2022年2月)で委員の方々には中間案をお示しており、それに対していただいた意見を反映しているところです。

検討会議以外では、市役所内でも会議で話し合われた内容については改めて協議を行っています。緊急物資輸送



緊急物資輸送拠点に設定されている総合体育館のメインアリーナ。災害時にはここに大量の物資が納入される予定となっています。

拠点から避難所までの物資供給の具体的な手順を記載するものですから、供給や受け入れ態勢はどうするのか、協力いただく関係機関の役割分担は適切かなど、都度経過を確認し無理のない運用になるよう調整しています。

検討会議設置前には定められていなかった物資管理に関する体制は非常に重要な部分であり、体制について明確に定めること自体がマニュアル策定の重要事項の一つです。第1回の検討会議の段階では、物資管理班、物資搬送班、管財施設班など班ごとの役割しか定めていなかったため、物資管理班の業務が多岐に渡り負担が多く、細部の役割分担を明確にするべきというご指摘をいただきました。検討会議でのご指摘を反映させ、国土交通省のハードブックを参考にしながら班の下にさらにチームを編成し業務を細分化したことで、各々の役割を整えることができました。

もう一点重要なことが、発災後に行う作業を定め、時間の経過ごとに落とし込む事です。恐らく発災時は特にこの項目を見ながらの作業になることが想定されますので、物資管理班の中でも特に検討を重ねた部分であり、上手く整理していく必要があります。

マニュアルでは発災から時間の経過

表②

	発災直後	24時間まで	72時間まで	7日まで	7日以降
フェーズ1	<b>体制の確立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>市災害対策本部、各班の立ち上げ</li> <li>物資管理に関する人員、備蓄拠点、物資集積場所、輸送道路等の被災状況の把握</li> <li>通信手段、人員、配送手段、物資集積場所の確保</li> </ul>				
フェーズ2	<b>備蓄物資の活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>市備蓄物資の供給</li> <li>都備蓄物資の提供依頼</li> <li>備蓄物資の避難所等への配送</li> <li>備蓄物資の被災者への配付</li> <li>備蓄物資不足時の調達</li> </ul>				
フェーズ3	<b>避難所等へのプッシュ型支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難者数に見合った物資量の想定</li> <li>物資集積場所における国、都、協定締結団体からのプッシュ型物資の受入れ及び管理</li> <li>必要な品目・数量について協定締結団体等へ要請</li> <li>物資の避難所等の配送(必要に応じて配送手段の拡大)</li> </ul>				
フェーズ4	<b>避難所等へのプル型支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難者の詳細なニーズの把握と必要な品目・数量の把握</li> <li>必要な品目・数量について協定締結団体等へ要請</li> <li>物資の避難所等への定期的、安定的な配送</li> </ul>				

武蔵野市災害時物資管理マニュアル(中間案)より引用して一部改変

ごとに4段階のフェーズに分けて設定しており、各段階の作業に応じて役割分担をしています。(表②参照)この役割分担を明確にすることで円滑な物資管理、物資供給が可能となると考えています。

このフェーズの分け方は、先行してマニュアル策定をされていた別の自治体のものを参考にしています。

検討会議で策定するマニュアルを実用的なものとするためにどのような活動を行いましたか。またそれによりどのような成果が出ていますか。

検討会議を進めていく中でマニュアルの作成以外で行ったこととしては、中間案をお示しした段階の2021年

12月に実施した情報伝達訓練がありました。時間をかけて策定したマニュアルも使用したときに役に立たなければ意味がありません。訓練を通していただいた意見を踏まえた内容に見直すことで最終段階のマニュアルがより実用的、実効的なものになればと考え、マニュアル中間案の段階での訓練実施と



緊急物資輸送拠点に設定されている総合体育館の屋外スペース。  
大型車両による物資の積み卸しや別の車両への積み出しのために一部を利用することになっています。

た。この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

マニュアル作成の段階で明らかになってきた課題などについてお聞かせください。

マニュアルそのものの課題としては、細かく作りこんだため膨大な情報量となっており、読み込みに時間を要するという点があります。今後はマニュアルを基にした訓練の経験を積んでいくことに加え、より職員が作業を行いやすいよう内容を簡潔にしていく必要があると考えています。

マニュアル内の課題は5点あり、1点目は緊急物資輸送拠点に関するものです。委員の方々を含めた方面から拠点の使い難さに関しての指摘が多く、使えなかった場合の代替案を考えていかなければなりません。事業者の倉庫や市の別施設を新たにお借りするか、自転車置き場などの空きスペースを利用する等、様々な可能性を含め検討しています。とはいえ、緊急物資輸送

拠点に設定している体育館を使用する

ことが第一ですので、まずはどのよう  
に運用を工夫させ切り抜けていくかを  
考えているところです。

2点目は配送手段、輸送手段に関する  
ことです。発災後に物流事業者から  
の車両の協力が得られるまでの、初期  
段階における課題です。トラック協会  
とも協定を締結していますが、武蔵野  
分会と武蔵野市の間の協定ですので、  
市と共に被災し対応が困難になること  
も十分考えられるとの意見もいただい  
ています。当市の公用車を使う案もあ  
りますが、物資を運べるような公用車  
が少なく、運転できる職員も多くあり  
ません。災害時に各々役割を持って  
いる中で人手を確保できるのかという問  
題もあります。車両や人手が不足した  
場合の解決方法は、引き続き、研究して  
いきたいと考えています。

3点目は情報伝達手段についてで  
す。マニュアル上ではメールと電話を  
中心に様式を使用して行うこととして  
いますが、訓練を通して情報伝達につ  
いてのご指摘を多くいただきました。  
訓練を重ねながら、より円滑な情報伝  
達が可能となるような手段を常に検討  
していかなければならないと考えてい  
ます。

4点目は備蓄倉庫の設備関連です。  
備蓄物資の活用の際に使用する備蓄倉

### 武蔵野市災害時物資供給 マニュアルに係る訓練

2021年12月17日、オンライン会議システムを活用した情報伝達訓練が行われました。

中間案に基づきフェーズ1の体制の確立と、フェーズ4のプル型支援時の情報伝達をメールや電話を使用して模擬的に実施し、運用に問題がないかの確認を行いました。

庫ですが、物資搬送や整理に使用する  
ための資機材の確保、管理が不十分で  
はと考えています。また通信面でも緊  
急物資輸送拠点とも円滑な情報伝達が  
必要です。市役所内では複数の通信手  
段を確保できていますが、市倉庫が事  
業団や民間の施設内にもありますの  
で、どのような手段で通信を行うか、災  
害時に使えるような仕組みの構築はこ  
れからの課題です。

最後5点目は物資の管理、供給に必  
要な資料の整理を行う事です。まず車  
両が緊急物資輸送拠点に到着するため  
には、①周辺の道路に関する情報、②施  
設の外観、③使用車両が搬入口まで入  
れるか、④発災時の道路状況など、他に

も多くの情報が必要で、しかもこれらの情報は全て満たそうとすると膨大な数になります。情報を収集しながら必要なものを取捨選択し、最低限の情報で円滑に運用できるようにマニュアル改定の際に反映させていかなければなりません。

課題としては以上5点が現状であがっており、マニュアルを使用した訓練を通して随時バージョンアップをしながら解決策を加えていきたいと考えています。

検討会議は2021年度で一旦終了になるかと思いますが、マニュアルは作って終わりではありません。今後どのような活動をされていくのかお聞かせください。



物資が運ばれてくる車両のサイズは様々です。斜面があり敷地に乗り込めない、拠点の出入口が狭く進入できないなどの理由で通り着けない事も。



検討会の設置に先立って、2020年1月22日に武蔵野市職員の方々を対象とした物資の供給・受け入れに関する研修会を行いました。

作って終わりではないという部分は我々も重く受け止めなければならぬと考えており、マニュアル策定後も5点の課題を含め対応出来ない部分を補完していくために、内容を更新し続けていきます。具体的には年1回程度の訓練を行い、関係機関からの意見も踏まえメンテナンスを行っていただくと考えています。

NPO法人コメリ災害対策センターは、様々な自治体との訓練経験をお持ちですので効果的な訓練情報の提供や、2020年に行っていた研修会など職員への啓発活動で今後も協力いただきたいと思います。

本日はお忙しい中ありがとうございます。

## ● 白山市訓練

NPO法人コメリ災害対策センターでは、協定を締結している自治体の主催する防災訓練に積極的に参加をしています。参加の内容としては「防災用品の展示」や「物資輸送の模擬訓練」での参加がほとんどですが、地域の目指す形や課題に合わせて、より実効的な訓練をご提案することもあります。過去には自治体と連携し、地域住民参加型の実動訓練を開催いたしました。



### 2017年9月 石川県白山市出城地区での防災訓練の様子

ラストワンマイルの課題解決の一助として、住民参加型の訓練を企画。大型車両で物資を搬入し住民による荷卸しを行いました。慣れない物資の重さに驚かれる様子や、崩れない物資の積み方について学ぶ場面もあり、地域の防災意識を向上させる有意義な訓練となりました。